１．学校教育目標

＜学校教育目標＞

「生きる力」を育み、未来に生きる児童の育成

い…いきいきと主体的に学ぶ子ども

２．研究テーマ

＜令和６年度 研究テーマ＞

自ら選択し、粘り強く学び続ける児童の育成

―個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して―

（１）テーマ設定の理由

① 学校教育目標から

本校の学校教育目標は上述の通りである。学習面に着目すると「いきいきと主体的に学ぶ子ども」の育成を目指している。主体的に学習に取り組む態度の評価にあたっては「挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、①児童生徒が自ら学習の目標を持ち、②進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、③粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意志的な側面を捉えて評価することが求められる※1」とされている。つまり，主体的に学ぶ児童の具体的な姿として①～③のような姿が見られることを求めているのである。このことを受け，「いきいきと主体的」をさらに具体的に「自ら決め，粘り強く学び続ける児童」としてテーマに示した。

② 今日的な教育課題から

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校の長期休業の際「子ども達は、学校や教師からの指示・発信が無いと、何をして良いか分からず学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないか※2」ということが指摘された。この指摘を受け，学校教育では，自ら学ぶことを決め，自分に合う学び方を選び，自ら学習を振り返るというような自立した学習者を育成することが求められている。

また，近年は子どもの多様性の量的・質的な拡大も進んでいる。発達障害の可能性のある子ども，不登校や不登校傾向の子ども，経済的な困難を抱える子ども，海外にルーツを持つ子ども等の増加に加え，これまで十分に光が当てられることがなかった特定分野に特異な才能のある子どもも存在する。それだけでなく，どの子どもも異なる興味・関心があり，独自の都合を抱えている。

このような多様な子ども達一人一人がいきいきと主体的に学んでいくために「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が重要である。

③　本校の児童の実態

昨年度の校内研究で共有された本校の子ども達の学習面に関する教員の見取りは以下の通りである。

	低学年ブロック	高学年ブロック
主体的に学ぶ	基本的に発言が多く，やる気に満ちあふれている。しかし「出来るようになりたい」ではなく「褒められたい」という思いが強い。また，粘り強く取り組む姿勢が弱い面もある。 ICT 機器活用の面では，タブレットを活用する際には意欲的に取り組み，生き生きとした様子が見られる。また，電子黒板を活用している中でも，文字を書いたり，拡大したりと，紙媒体ではできないことを行うととても良い反応が見られる。	・課題を正確に把握することが難しい。 ・学びに対する意欲がもてない。 ・導入で意欲をもてたとしても，意欲を持続することが難しい。 ・あきらめやすく，粘り強さにかける。 ・好きなことはどんどんできる。 ・学習や経験についての力が二極化していて，基礎知識が少ない子もいる。
対話的に学ぶ	自分の考えだけを伝えてしまう傾向がある。キャッチボールではなく，ドッジボールのような形となってしまう。２年生は徐々に「理由」を明確にしながら「主張」をしようとする姿が見られている。	・友達と話したり友達から聞いたりするよさを感じていない。 ・手を挙げない子がいるが，挙げなくても意見をもっている子はいる。

昨年度、ICT 活用だけでなく個別最適な学びの実現も目指した三年生理科「太陽とかげ」の提案授業を行った。その反省には「段階的な自由進度学習を取り入れた結果、子供たちが活き活きと自分たちのペースで学習している姿が見られた場面が多かった」とある。表のような本校の児童の実態を改善していくためにも「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を目指した授業づくりが必要である。

④　令和６年度山梨県学校教育指導重点から

令和６年度山梨県学校教育指導重点では、「主体的に学び他者と協働し豊かな未来を拓くやまなしの人づくり※2」をこれからの山梨県が目指す学校教育としている。またそのために重点を置きたい主な取り組みとして「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し，『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善及び評価に取り組み，新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努める※2」ことを挙げている。

（２）テーマに関わる用語の整理

①「自ら選択」とは

「個別最適な学び」は②にもあるように「個に応じた指導」を学習者視点から捉えたものである。つまり，子ども達自身が自分に合った学習内容，学習方法，学習道具，学習環境，対話相手，学習のタイミング，学習する順番等を選択し，学んでいくということである。授業の中で子ども自身が選択できる場面をできるだけ取り入れていくことが個別最適な学びを実現する一助になると考えられる。

②　個別最適な学びとは

「指導の個別化」と「指導の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり、この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である※3。

指導の個別化	指導の個性化
教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うこと、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと　等	幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探求においての課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること

③協働的な学びとは

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探求的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と話し合ったり、分業したり、相談したりしながら学びを進める。

３．研究仮設

個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業実践を行うことで、いきいきと主体的に学ぶ（自ら決め、粘り強く学び続ける）児童が育成されるであろう。

４．本校の子ども観

すべての子どもは学ぼうとしており，適切な環境と出会いさえすれば、自ら進んで学びを進め、深めていく

私たち教員の日々の指導や授業は，無自覚的かもしれないが「子どもとはこういうものだ」という子ども観に基づいている。例えば「子どもは教えてやらなければ分からない」という子ども観に立てば、授業づくりも知識を伝達するようなものになりがちだと思われる。一方で，本校の子ども観に立つ教員は，子どもの学ぶ力を信じ，子どもが自ら学びを進めていける様な教材・環境づくりに努めるだろう。また，子どもの学びがうまくいかないときには，自らの指導や環境にその原因を求め，改善していくであろう。個別最適な学びと協働的な学びを目指すために職員全体で上記の子ども観を共通認識として研究を進めていきたい。

５．研究方法

（１）学習会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」に関することを中心に学習会を行う。指導主事や大学教員を招聘し，講義を行ってもらったり，ブロックで集まって考えを交流する場を設けたりする。

（２）提案授業

ブロックで一本の提案授業を行い、授業後（放課後）には協議会を行う。その中で授業実践の成果と課題を明らかにし、仮設の検証を行う。

（３）一人一実践

一人一実践を行い，仮説の検証を行う。具体的には以下のように行う。

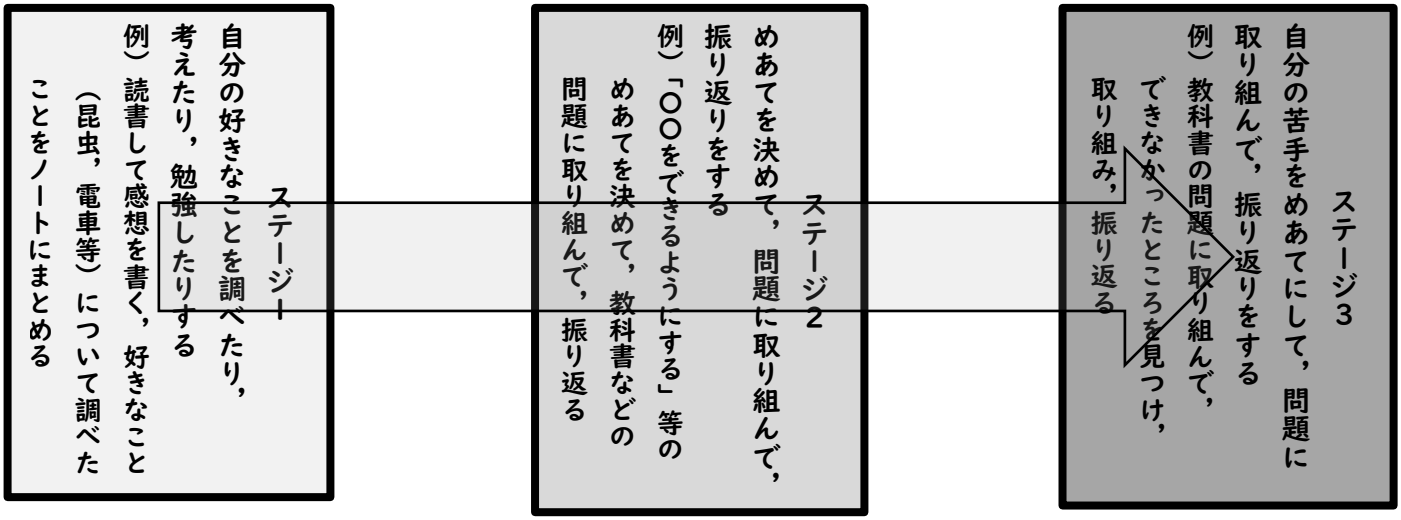
① 教科は自由
② 校長先生・教頭先生が参観可能な日に授業の予定を入れる
③ 指導案作成と配布は無し
④ 期日・時間・教科を明記した予定一覧を作成し，周知する
⑤ 授業参観は自由とし，途中での出入りも可
⑥ 参観者用シートを用意し，校内研究のテーマの視点から気づいたことを書き出してもらい、研究主任へ提出
⑦ 研究通信に授業の概要や振り返りの様子を記載し，配布する

（４）QU を活用した学級づくり

１学期と２学期にウェブ QU を実施し，その結果を学級経営に生かす。必要に応じて指導主事を招聘して学習会も企画する。

（５）自主学習のすすめ（旧バージョン）

子ども達に自主学習のやり方とレベルを提示し，自主学習を推進する。具体的には以下のレベルと別紙（準備中）に示す各レベルの自主学習の具体例を子ども達に提示して，自主学習に取り組むことを薦める（５～６月頃）。子ども達が取り組んだ自主学習は常に募集し，見本として掲示していきたい（子どもの自主学習はぜひ印刷して研究主任までお願いします）。提出された自主学習には実態に応じてシールを貼ったり、コメントを入れたりして返却をする。



※担任は子ども達がどのレベルの自主学習に取り組んだとしても、取り組んだことを認める。その上で「さらに上のレベルの自主学習に取り組んでみたい」と思えるように、レベル２・３の自主学習を紹介したり、コメントを入れたりする。

（５）自主学習のすすめ（新バージョン７月 10 日～）

自主学習の３パターン

好き・チャレンジ自主学習♡

好きな事・興味ある事について
調べたり、考えたりして
ノートにまとめよう

予習・復習自主学習〇

これからの授業で学ぶことを
一歩先に教科書を読んで
ノートにまとめたり、
授業で学んだことを
活かして問題を解いたり
ノートにまとめたりしよう

苦手こくふく自主学習△

自分の苦手なこと
テストや授業で取り組んだ
問題で間違えたことが
できるように
練習しよう

子ども達はどのパターンの自主学習に取り組むかをマークでノートに示す。
また、基本的にノートにめあてとふり返りを書く。

６．研究組織

校長・教頭
教務主任

研究推進委員

全体会

☆研究推進委員

低学年ブロック		
１年	２年	３年
☆中西 重森	清水佳 今村	☆小川 清水千
校長　奥秋亮　望月　中野恵 奥秋璃　堀内　石原　前田		

高学年ブロック		
４年	５年	６年
青木 ☆入倉 水上	☆安田 落合	宮澤　渡邉 上條　森嶋
教頭　中野洋　高橋　中澤 高部		

７．校内研究予定

回	日	形式	内容	司会・記録
１	４月 17 日（水）	全体会	今年度の研究の方向性について	１年
２	５月 23 日（木） ※短縮６校時	学習会	個別最適な学びと協働的な学びについて ① 求められるようになった背景 ② どのような学びか ③ 具体的な実践事例　等　（三浦指導主事を招聘）	２年
３	６月 19 日（水）	全体会 ブロック	今年度の研究の方向性を決定、提案授業者決定 ブロックの研究の方向性を確認	３年
４	７月 10 日（水）	全体会	ブロックの研究の方向性について共有	４年
５	８月 26 日（月）	ブロック	提案授業について検討（三浦指導主事を招聘）	５年
６	10月９日（水）	ブロック	提案授業について検討（三浦指導主事を招聘）	６年
７	11 月 28 日（木）	公開研究会	校内研提案授業３本を公開し、成果・課題を見取る。	教務
８	12 月 11 日（水）	全体会	低学年ブロックの提案授業の視聴・事後検討会	１年
９	１月 29 日（水）	全体会	高学年ブロックの提案授業の視聴・事後検討会	２年
10	２月 26 日（水）	全体会	初任研提案授業の視聴・事後検討会、研究のまとめ	３年

引用・参考文献

文部科学省（2019）「児童生徒の学習評価のあり方について（報告）」，p.9-10.

文部科学省（2021）「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」,p.13.

奈須正裕（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』，東洋館出版社.

奈須正裕（2022）『個別最適な学びの足場を組む。』，教育開発

澤井陽介（2024）『入門 校内研究の作り方-教師自らが共に学ぶ主体的・対話的で深い研究を実現する-』，東洋間出版社.

澤井陽介（2022）『できる評価・続けられる評価』，東洋間出版社.

田村学（2021）『学習評価』，東洋館出版社.

山梨県教育委員会（2024）「令和６年度山梨県学校教育指導指針」
（https://www.pref.yamanashi.jp/documents/95194/ri-huretto.pdf）